

北海道の生涯学習の現状～持続可能な潤いのあるふるさとづくりに向けて～【概要版】

1 作成の趣旨

「本道の生涯学習の推進状況を適切に評価し、様々な主体に対して、効果的な働きかけや支援を行うことが必要」との北海道生涯学習審議会の提言(H28.3)を踏まえ、諸調査や実践事例などの基礎データを提供する。

2 構成とポイント

- (1) 第Ⅰ部 本道の生涯学習の現状 ～ 各種調査のデータ等
 - 住民の意識調査は年代、人口規模等でクロス集計
 - 生涯学習推進局の施策を網羅
- (2) 第Ⅱ部 持続可能な地域づくりの担い手たち ～ 実践事例
 - 「実践家」に焦点を当てたインタビュー
 - センターが配信する動画とのリンク
- (3) 第Ⅲ部 「持続可能な社会づくりの担い手づくり、体制づくりに関する調査研究Ⅱ」
 - 地域づくりに向けた生涯学習の理論
 - 紹介事例の分析等によるモデルプログラム

3 概要

(1) 第Ⅰ部 本道の生涯学習の現状

<p>1 生涯学習に関する道民の意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生涯学習に取り組む道民は66% ○ ここ数年同程度の割合で推移 ○ 学習の場所は「同好会、サークル活動」が45% ○ 学習内容は「趣味的なもの」が61% ○ 学習の成果をまちづくりやボランティア活動に生かしている割合は45% ○ 今の生活へ満足している割合は68% ○ 生きがいを感じている割合は63% ※ 学習している方が満足度、生きがいとも高い ○ 家庭教育や子育てに関する学習・相談の機会が充実していると考える道民は27% ○ 超高齢化を地域課題と考える割合は82% ○ 災害や防災を地域課題と考える割合は76% ○ 今後学びたいことは「健康やスポーツ」が51% 	<p>2 道内市町村における生涯学習推進体制の整備状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生涯学習の推進に係る計画等の策定率は48% ○ 社会教育委員を設置している市町村は99% ○ 子どもの居場所づくりに取り組む市町村は87% ○ 超高齢社会に関する学習機会は94%が提供 ○ 学校・家庭・地域の連携の促進を極めて重要な課題と考える市町村は35%
	<p>3 北海道教育委員会の主な生涯学習振興施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習機会の提供(道民カレッジ) ○ 家庭教育支援の推進 ○ 望ましい生活習慣の定着 ○ 読書活動の推進 ○ 体験活動の推進 ○ 芸術・文化活動の推進 など

(2) 第Ⅱ部 持続可能な地域づくりの担い手たち

事例	特徴
剣淵町「絵本の里けんぶちVIVAマルシェ」 代表者 高橋 朋一 氏	若手農家による軽トラックを使った野菜販売 「ほめられたことが、刺激になって、新たな挑戦の意欲に・・・」
羅臼町「羅臼町活性化ワーキンググループ」 芦崎 拓也 氏	若者が中心になった地域のよさを再確認する取組 「まず、今ある資源を見つめ直して、流ものを生かして・・・」
浦幌町「うらほろスタイル推進地域協議会」 初代会長 近江 正隆 氏	子どもたちの育成を中心に据えた地域づくり 「地域を知る過程の中で、子どもたちのモチベーションも上がってくる・・・」
豊富町「豊富温泉もりあげ隊」 堂脇 さとみ 氏 中島 まなみ 氏	地域資源(温泉)を媒介とした住民と湯治客のつながりづくり 「地域にないなら、自分たちでつくろうよ・・・」
真狩村「農家レストラン」 佐伯 秀範 氏	農家が人里離れた丘の上に立てた小さなレストラン 「こだわって作っている野菜を美味しく味わってほしい・・・」
岩見沢市「NPO法人 炭鉱(やま)の記憶推進事業団」 理事長 吉岡 宏高 氏	衰退の進む旧産炭地に元気を取り戻す活動 「ゴールは見えないが、とにかく一歩踏み出さなげりや・・・」
旭川市「NPO法人 グラウンドワーク西神楽」 理事 谷川 良一 氏	自然との共生・共働による自治的地域づくり 「やりたいことはなくても、何かに困っていることはある・・・」

(3) 第Ⅲ部 「持続可能な社会づくりの担い手づくり、体制づくりに関する調査研究Ⅱ」

第Ⅱ部の事例の分析を含めた生涯学習推進センターの調査研究

4 市町村における活用のイメージ

- (1) 関係職員の研修 ～ 事例やモデルを参考にした講座の企画、自己研鑽の読み物など
- (2) 社会教育委員等の研修や各種講座 ～ 事例の動画の活用や講座への講師招聘、参考資料など
- (3) 諸計画の策定 ～ 理論構築の根拠(調査データ等)、アンケート項目の作成など